

- 1 単元名 しらせたいことをかきましょう
- 2 単元について

この単元に関わる内容として、学習指導要領（1・2年）に示されている指導事項は次の通りである。

「B書くこと」（2）内容 ①指導事項

- (1) ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。
- イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
- ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。
- エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。
- オ 書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。

本単元は、上記アとイに基づき、経験したことなどから「知らせたいことを書く」ことを主な目標としている。

児童は、「書くこと」については、5月に「えとことばでかきましょう」で絵に合う言葉や文を書くこと、6月に「ぶんをつくりましょう」で主語・述語と句点の一文を書くことを学習してきている。平仮名については、「ごじゅうおん」などで清音、「かき、かぎ」で濁音・半濁音、「ねこ、ねっこ」で促音、「のばすおん」で長音、「しゃしゅしょ」で拗音を学習してきている。しりとり遊びや言葉集めなどにも意欲的に取り組み、様々な言葉に対する興味が高まってきている。また、「話すこと・聞くこと」については、「はなしましよ、ききましよ」で、二人組での対話・小グループでの会話・学級全体での公話という言語活動を通して、過去形の常体（～たよ）・敬体（～ました。）を学習してきている。

本単元において、子ども達は習得した平仮名を使って初めて「文章」を書く。「話すこと・聞くこと」から、「書くこと」によって、知らせたいことを伝え合う。文字に対して抵抗のある児童もいるので、既習の「はなしましよ、ききましよ」「えとことばでかきましょう」を生かし、まずはお話しをするように書くことから始めていく。

本単元の第一次では、教材として、三つの文例が示されている。

題	種類	用紙	文体（過去形）	特徴
第一文例 「かたつむり」	発見型	罫線	話し言葉（～たよ。）	「何が」 「～たり、～たり」
第二文例 「にじ」	発見型	マス目（10×6）	話し言葉（～たよ。）	「せんせい、あのね」 「いつ」「何を」
第三文例 「かみひこうき」	体験型	マス目（10×7）	書き言葉（～ました。）	「いつ」「誰と」「何を」

書く内容はいずれも題・氏名・本文（二文）である。文体は常体から敬体へと既習の「はなしましよ、ききましよ」と同様の段階を踏む。三文例とも、書き始めは一文字下げ、句読点がいれている。学習が進み、罫線からマス目へ、常体から敬体へ、と段階が上がる時、途惑う子どもがいるであろう。その際、視写や、子どもたちの発言を取り上げてみんなで一緒に書き上げていく「みんなで作文」に取り組み、書き方に慣れることができるようにしたい。

本単元では、子どもの「知らせたい、書きたい。」という思いを最も大切に、発信者として知らせる喜び・伝わった喜び、また受信者として知る喜びを味わわせたい。誰に・何を知らせるのかを明確にし、書くことよさを実感できるようにすることで、書くことが好きな子を育てたい。「知らせたいことを書いてよかったな。また書きたいな。」という思いを、「書くこと」の次単元「えにつき」や「たのしかったことをかきましょう」に繋げていきたい。

3 児童の実態（男子16名 女子15名 計31名） 実態調査6月10日実施

本学級の児童は、とても素直で優しく、学習も生活も一生懸命頑張っている。入学して三か月が経過し、学校生活にも少しずつ慣れてきた。しかし、大変緊張しやすく、初めての体験をする際、まだ不安で泣いてしまう子どももいる。また、学校での出来事を、家でなかなか伝えることができない子どもや、伝えようとしてもうまく伝えることができない子どももいる。そこで、より学校生活に慣れ親しむことができるよう、また伝え合う力を高めることができるよう、保護者の方々からご協力いただき、学校で発見したことや体験したことを、家族へ書いて知らせる言語活動に取り組む。自分が書くことで、発信者として知らせる喜びを味わい、相手から返事をもらうことで、伝わった喜び、また受信者として知る喜びを味わうことができるだろう。

本学級児童の実態として、平仮名清音46字を一字ずつ「読むこと」「書くこと」については、ほぼできるようになった。ただし「読むこと」については発音が不明瞭で、「ことばの教室」を検討している児童が2名いる。また「書くこと」については、一字ずつは書いても、文になると書き間違える児童が多い。すらすら読み書きできる子、たどたどしく時間がかかる子がいる。正しい姿勢・正しい持ち方で書くことができる児童が少ないため、「グー・トン・ピン・サッ」（「グー」は椅子・机と体の間をグー一つ分けること、「トン」は床にトンと足をつくこと、「ピン」は背筋をピンと伸ばすこと、「サッ」は鉛筆を持たない手をサッと添えること）の声かけ・「もちかたくん」の使用を継続している。

<文を書くこと実態調査>

二文を書くことができる。	11名
一文を書くことができる。	20名
文を書くことができない。	0名

「文を書くこと」については、上記の実態であった。二文を書くことができた児童の中で、一文目を受けて二文目を書いている児童は5名、書いていない児童は6名であった。このような実態から、本単元では、一文目を受けた二文目を書くことができるよう、重点的に指導に取り組む。一文目では、「うさぎがいたよ。」など、相手に知らせたいことを書く。二文目では、相手が知りたいと思うことを考えて書く。「うさぎは何色だったの。」と相手が知りたがると思えば、二文目は「白いうさぎと茶色いうさぎだったよ。」などとなり、「うさぎはどんな様子だったの。」と相手が知りたがると思えば、二文目は「びよんびよんはねたり、はなをひくひくさせたりしていたよ。」などとなる。段階を踏んで書き方を身に付けることができるよう、視写、「みんなで作文」、「ひとりで作文」という順序で取り組み、単元構成の工夫を図る。また、「何を書いていいかわからない。」という児童には、書くための題材さがし（「宮野木小でみつけたよ」）や共有体験（「みんなでシャボン玉遊び」）の時点から寄り添い、声かけに取り組んでいくことで、知らせたいことを見つけ、自信をもって書くことができるようにしていきたい。

4 単元の目標

- 知らせたい相手に知らせたいことを進んで書く。(関心・意欲・態度)
- 経験したことなどから、知らせたいことを簡単な文章で書く。(書くこと)

5 指導計画 (14時間扱い) <本時5 / 14>

次	時	学習活動と内容	評価の視点
第一 次	1	<ul style="list-style-type: none"> ○【さくぶんとなかよし①】「1ねん6くみ、せんせいあのね」 ○知らせたいことを書いて、誰かにあげたり、もらったりした経験を出し合い、書くことのよさを考える。 ○単元名・リード文・挿絵・作文例(題・氏名・本文)を確認し、単元全体の見通しをもつ。 ○文を書いて知らせたい相手と知らせたいことを出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことに興味をもち、知らせたい相手と知らせたいことを、進んで考えている。 <関心・意欲・態度>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○【さくぶんとなかよし②】「だいまつけ」 ○知らせたいことがどんなことか、題を発表し合う。 ○知らせたいことを作文に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知らせたいことを、題をつけて作文に書いている。 <書くこと>
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○【さくぶんとなかよし③】「まちがいさがし」 ○教科書教材・第一文例「かたつむり」を音読する。 ○「かたつむり」の文章で気が付いたことを伝え合う。 ○知らせたいことを相手に伝える時の書き方を知る。 ○《えんぴつタイム》「かたつむり」を視写する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視写などを通して、罫線用紙における、相手に伝える時の書き方を理解している。 <書くこと>
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○【さくぶんとなかよし④】「ことばのたからばこ」 ○「みんなで作文」を作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・罫線用紙 ・題名・名前・本文(二文程度) ・何を・～たり、～たり ・過去形・話し言葉(～たよ。) ○《えんぴつタイム》「みんなで作文」を視写する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視写などを通して、罫線用紙における、相手に伝える時の書き方を理解している。 <書くこと>
	5 本時	<ul style="list-style-type: none"> ●《生活科・休み時間》 「宮野木小でみつけたよ」で、飼育小屋でうさぎとふれあう。 ○【さくぶんとなかよし⑤】「ことばのたからばこ」 ○「宮野木小でみつけたよ」で、家の人へ、文章にして知らせたいことを述べ合う。 ○知らせたいことを作文に書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・罫線用紙 ・題名・名前・本文(二文程度) ・何を・～たり、～たり ・過去形・話し言葉(～たよ。) ○書いた作文を読み合い、よいところを見つけて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手と知らせたいことをはっきりさせて、題を決めて書いている。 <書くこと>

	<p>●《放課後》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作文を持ち帰り、家の人に読んでもらう。 ・続きやもっと詳しい内容について話す。 ・家の人に返事を書いてもらう。 	
6	<p>○【さくぶんとなかよし⑥】「まちがいさがし」</p> <p>○教科書教材・第二文例「にじ」を音読する。</p> <p>○「にじ」の文で気が付いたことを述べ合う。</p> <p>○知らせたいことを相手に伝える時の書き方を知る。</p> <p>○《えんぴつタイム》「にじ」を視写する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視写などを通して、マス目用紙における、相手に伝える時の書き方を理解している。 <p>＜書くこと＞</p>
7	<p>○【さくぶんとなかよし⑦】「ことばのたからばこ」</p> <p>○「みんなで作文」を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マス目（10×6）用紙 ・題名・名前・本文（二文程度） ・「〇〇さん、あのね、」 ・いつ ・何を ・過去形・話し言葉（～たよ。） <p>○《えんぴつタイム》「みんなで作文」を視写する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視写などを通して、マス目用紙における、相手に伝える時の書き方を理解している。 <p>＜書くこと＞</p>
8	<p>●《生活科・休み時間》</p> <p>「宮野木小でみつけたよ2」で、宮野木小学校にある植物・小動物・虫などを探す。</p>	
	<p>○【さくぶんとなかよし⑧】「ことばのたからばこ」</p> <p>○「宮野木小でみつけたよ2」で、1年5組の友達へ文章にして知らせたいことを述べ合う。</p> <p>○知らせたいことを作文に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マス目（10×6）用紙 ・題名・名前・本文（二文程度） ・「〇〇さん、あのね、」 ・いつ ・何を ・過去形・話し言葉（～たよ。） <p>○書いた作文を読み合い、よいところを見つけて発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手と知らせたいことをはっきりさせて、題を決めて書いている。 <p>＜書くこと＞</p>
	<p>●《休み時間》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作文を届け、1年5組の友達に読んでもらう。 ・続きやもっと詳しい内容について話す。 ・1年5組の友達から返事を書いてもらう。 	
9	<p>【さくぶんとなかよし⑨】「まちがいさがし」</p> <p>○教科書教材・第三文例「かみひこうき」を音読する。</p> <p>○「かみひこうき」の文で気が付いたことを述べ合う。</p> <p>○知らせたいことを相手に伝える時の書き方を知る。</p> <p>○「かたつむり」と「にじ」を、話し言葉から書き言葉に書き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。 ・視写などを通して、マス目用紙における、相手に伝える時の書き方を理

	<p>換える。</p> <p>○《えんぴつタイム》「かみひこうき」を視写する。</p>	<p>解している。</p> <p>＜書くこと＞</p>	
10	<p>○【さくぶんとなかよし⑩】「ことばのたからばこ」</p> <p>○「みんなで作文」を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マス目（10×7）用紙 ・題名・名前・本文（二文程度） ・いつ ・誰と ・何を ・過去形・書き言葉（～ました。） <p>○《えんぴつタイム》「みんなで作文」を視写する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書き言葉で書くことができる。 ・視写などを通して、マス目用紙における、相手に伝える時の書き方を理解している。 <p>＜書くこと＞</p>	
11	<p>●《生活科・休み時間》</p> <p>「シャボン玉遊び」をする。</p>		
	<p>【さくぶんとなかよし⑪】「ことばのたからばこ」</p> <p>○「シャボン玉遊び」で、知らせたい相手へ文章にして知らせたいことを述べ合う。</p> <p>○知らせたいことを作文に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マス目（10×7）用紙 ・題名・名前・本文（二文程度） ・いつ ・誰と ・何を ・過去形・書き言葉（～ました。） <p>○書いた作文を読み合い、よいところを見つけて発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書き言葉による表現の仕方を理解し、簡単な作文を書いている。 <p>＜書くこと＞</p>	
	<p>●《休み時間・放課後》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知らせたい相手へ作文を届け、読んでもらう。 ・続きやもっと詳しい内容について対話する。 ・知らせた相手から返事を書いてもらう。 		
12	<p>【さくぶんとなかよし⑫】「ことばのたからばこ」</p> <p>○単元の振り返りをする。</p> <p>○学んだこと・できるようになったことを確認する。</p> <p>○使えるようになった素敵な言葉の紹介をする。</p>		
第二次	13	○助詞の「は」「を」「へ」の使い方や、句読点の打ち方を理解し、正しく書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・助詞の「は」「を」「へ」を正しく書くことができる。＜書くこと＞
	14		

6 本時の指導

(1) 本時の目標

相手をはっきりさせて、知らせたいことを、題を決めて書く。

(2) 展開

学習活動と内容	教師の指導・支援 (○) と評価 (◎)
<p>(さくぶんとなかよし⑤を行う。)</p> <p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知らせたい相手と知らせたい内容を確認する。 ・作文の書き方を確認する。 <p>2 本時の学習の進め方とめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 知らせたいことを書くことに対する意欲と、相手意識を高められるよう声かけをし、本時に生かすことができるようにする。 ○ 振り返りやすいよう、掲示物を活用する。 <ul style="list-style-type: none"> ・えんぴつタイム視写作品（書き方） ・ことばのたからばこ（言葉）
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">かぞくに知らせたい、うさぎのことをかきましょう。</div>	
<p>3 相手や内容を意識して、作文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい姿勢・正しい鉛筆の持ち方で書く。 ・罫線用紙に書く。 ・知らせたい相手を書く。 ・題（知らせたいこと）を書く。 ・自分の名前を書く。 ・本文を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・過去形・話し言葉 ・「何を」・「～たり、～たり」 ・文章を読み返し、間違いに気付いたら直す。 <p>4 書いた作文を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰に・どんなことを知らせたかったのか発表する。 ・よいところを見つけて感想を伝える。 <p>5 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ もらった相手が喜ぶ内容となるよう声かけをする。 ○ 書けずに困っている子どもには、知らせたいことを話して確認し、「お話ししたことを書いてみよう。」と声かけをする。 ○ 前時までの学習や、さくぶんとなかよしで学んだことを生かすよう助言する。 ◎ 相手をはっきりさせて、知らせたいことを、題を決めて書くことができる。 ○ 誰にどんなことを知らせたかったのかを、明確にし、発表できるよう支援する。 ○ よいところを賞賛し、よいところを見つけれられたことについても大いにほめる。 ○ 本時で学んだことを確認し、できるようになったことを讃え、次時への意欲をもつことができるようにする。